飛び出せ!! OKINAWA みんなでグッジョブ運動

ヒト・モノ・企業のグッジョブ

沖縄県産品映画

沖縄を飛び出し、県外や海外で認められている
ヒトやモノ・コト、企業のあふれる
パワーをお届けします。

年間400本以上の映画を上映している
「桜坂劇場」

国内、海外からも熱い視線が注がれる「沖縄の風景」

県民の身近な娯楽として人気の映画。近年、沖縄独特の歴史や文化、美しい自然などを題材とした映画が数多く製作され、「県産品映画」として注目されています。さらに沖縄での国際映画祭の開催や、沖縄の美しいロケーションを韓国映画で活用するなど沖縄県の映画産業の可能性は大きな広がりを見せています。

「沖縄の風景などの映像ニーズは国内だけでなく海外からも高まっており、ロケ数はCMも含めると国内ダントツ。亜熱帯独特の気候風土や他の地域にはない人やモノの魅力がプラスに働いている」と話すのは桜坂劇場専務取締役の上原力さん。ミニシアターながら、県産品映画を含む年間四百本以上もの映画を県民に提供する中でこの好機に期待を寄せています。

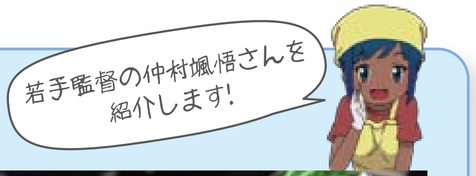
沖縄独自のテーマがディープに描かれる「沖縄県産品映画」

県出身監督による県産品映画といえば、新城卓の「オキナワの少年」や高嶺剛の「ウンタマギルー」、そして中江裕司・真喜屋力・當間早志の「パイナップルツアーズ」、岸本司の「アコークロー」、そして最近では、製作当時十四歳だった仲村颯悟の「やぎの冒険」などが挙げられます。特に「やぎの冒険」は監督・脚本・製作・スタッフ・キャストのすべてが沖縄という純県産品映画。「新世代映画祭(カナダ)」や「ソウル国際青少年映画祭」「上海国際映画祭」で正式招待作品に選ばれ、世界的にも注目されています。

「最近では観光地的な沖縄よりも、よりディープな沖縄を描く映画が増えており、映画のプロたちが独自の視点で沖縄に目を向けてきている」と上原さんは語ります。

桜坂劇場では洋画・邦画以外に
沖縄県産品映画も数多く上映

桜坂劇場専務取締役
上原力さん



活躍する若手監督さん

**チームワークを大切に
沖縄の題材にこだわって
映画を撮り続けたい**

「やぎの冒険」映画監督
仲村 颯悟 さん

「やぎの冒険」を撮影中の仲村颯悟監督

小学校3年生のときからビデオで映画を撮りはじめました。自分の作品が「県産品映画」と呼ばれるのは誇らしい気持ちで、沖縄にはやぎを食べる独特の文化以外にも歴史や民話など映画の題材が豊富。海外の映画祭では笑う箇所が日本人と違ったり、受け取り方が違うのが新鮮で、映画で異文化交流をしている気持ち。今取り組んでいるのはジュゴンの自主製作映画。いつか沖縄のホラー作品も撮りたい。

映画産業活性化の起爆剤となる「映像特区」を沖縄に!

ドキュメンタリー映画「よみがえる琉球芸能　江戸上り」が昨年、映文連アワード2011を受賞し、その前年には「浦添ようどれ　よみがえる古琉球」が同アワードで優秀企画賞を受賞。ローカルヒーローを題材とした「琉神マブヤー」も映画化されるなど、県産品映画は芸術性や文化性の高さ、テーマの多様性が広く評価されています。

「県産品映画は異文化理解につながり、歴史や文化の啓蒙もできる」と上原さん。「フィルムオフィスを高度にして映像特区を作り、映画製作のワンストップサービスを実現して欲しい。沖縄ならではの『海の映画祭』の開催も!」と沖縄で映像を特産物にして興行的にも支援する公的なシステムを切望しています。世界の評価を集める良質の県産品映画が、沖縄の産業を拓くチャンスになるかもしれません。

2012年1月7日より全国公開「琉神マブヤー THE MOVIE 七つのマブイ」(C)2011琉神マブヤーTHE MOVIE製作委員会

ドキュメンタリー映画「よみがえる琉球芸能 江戸上り」本番舞台の御座楽5のシーン
(c)蘇る琉球芸能 江戸上り映画製作実行委員会

知っておきたい 世界から認められたポイント!

仲村颯悟監督の「やぎの冒険」が世界的に注目されたのは、十四歳の若さで劇場用長編映画を撮ったことと興行的な成功が挙げられます。上原さんは、「沖縄の風景やそこに住む人間には力がある。特異な歴史に培われた精神の豊潤さがある沖縄は、テーマもそこで生まれ育った監督の観察眼も他の地域とは異なる」と評価。県民の映画に対する民度や感度の高さもそれを支えているようです。

やぎを食べる沖縄の文化を通して少年の成長を描いた「やぎの冒険」